

コロナ禍でも楽々発信 ～オンラインを活用した安心な普及活動～

- ◆活動年次：令和2年度 （広域推進 情報・クリーン・有機）
- ◆対象：日高管内農業者、JAびらとりスマイルトマト女子会、4HC、女性軽種馬ネットワーク、日高管内指導農業士・農業士会、次代を担う青年農業者ゼミナール

1 課題の背景

【 コロナ禍における3密回避 】

- ・ コロナ感染対策として、密を避けるために、研修会などが中止となった...
- ・ 研修会の規模縮小や、移動の制限により、参加したい研修会にも参加出来ない...

【 日高管内の現状 】

- ・ 施設園芸は、とにかく忙しい！（長期間、収穫が続くため、農業者の時間が制約）
- ・ 日高管内は東西に広く、移動時間がかかる！
- ・ 農業女性は忙しい！（ハウスの管理作業に家庭の家事、子供の面倒など・・・）

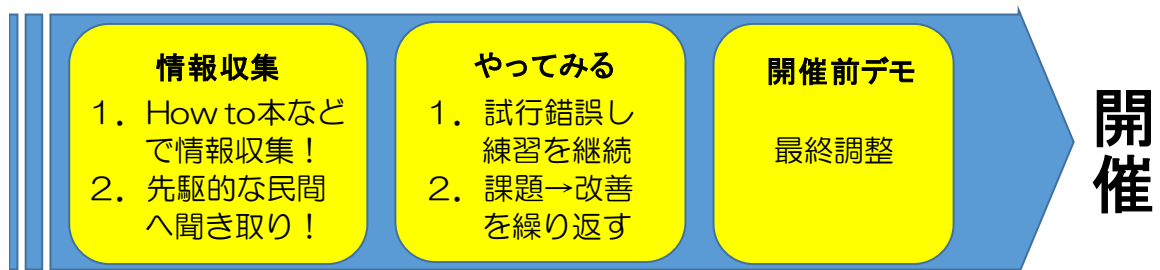
【 農業者からの要望が上がる 】

- ・ コロナ禍の状況であっても、研修会の開催など学び場を設定して欲しい！
- ・ 地域の農業者たち同士で、情報交換したい。

一人でも多くの農業者に、情報提供・情報共有が出来るようにしたい！**「オンラインを活用した研修会も開催しよう！」**

2 活動の経過

(1) オンラインに向けた環境作り



(2) 管内のオンライン研修等の開催状況

表：日高管内 オンライン研修等の開催状況（令和2年9月9日～令和3年2月19日）

組織・団体	開催内容	日時	参加者
スマイルトマト女子会	研修会（全9回）	R2.9～R3.2	21名
普及センター（自主研修等）	研修会（全4回）	R2.11、R3.2	16名
馬女ネット	Zoom研修会（全2回）	R2.11、R3.2	14名
4Hクラブ	農業研究大会・会議	R2.12、R3.2	31名
ホクレン・普及センター	農業学習会	R2.12	16名
中央会・普及センター	JA営農指導員研修	R2.12	9名
関係機関・普及センター	試験栽培米試食会	R3.1	30名
次代を担う青年農業者ゼミナール	ゼミナール（会議）	R3.2	10名
日高管内指導農業士・農業士会	研修会（気象セミナー）	R3.2	35名

オンライン研修の開催は20回を越え、延べ参加人数は**180名以上**となっている。

(3) 具体的なオンラインの実践内容

【 JAびらとり スマイルトマト女子会 】

女子会からの要望で開催。管内初のオンライン研修。開催当初は、音声や動画の撮影など課題が山積したが、開催を重ね課題克服。現地の研修会が主体だが、参加出来ない農業者へのフォローとしてオンラインを活用。



オンラインで質問に返答



現地研修でもオンライン

【 日高管内4Hクラブ 青年農業者研究発表大会 】

4Hクラブでは、オンラインによる研究発表大会を開催。管内3地区に分け、オンラインでの発表を実施。普及センター・振興局は、開催前の使用説明や打合せ、開催時のZoomホスト役など運営全般を支援。



全員で事前に動作確認!



各地区から発表しました!

【 農業者の要望 】

Zoom活用の研修会も開催。今後の会議・研修会はオンラインも視野に。



Zoomの使い方を学ぼう!

【 職員の研修に活用 】

所内職員も積極的にオンライン研修に参加。所内での情報共有にも活用。



所内でも研修会で活用!

3 活動の成果



オンラインに対する 農業者の声

移動がないので、「とってもラク」です！
音声を聞きながら、作業しています！
開催を重ねるごとに、慣れて良いです！
コロナの心配がないので、とても安心してます
普段は参加しない人や組織の参加が見られた

「農業者からは、オンライン研修に対して良い声が聞こえています！」

忙しい! そんな人こそ オンライン
・聞き手は、会場への移動がなく、時間の節約に繋がる⇒「忙しい日高の農業者には、有効と思われる」

悩むより やってみなはれ 何回も
・実践→課題→改善→実践...を繰り返し、安定したオンラインが実現!
⇒「面倒がらずに挑戦し続ける!」

現地で開催する研修会を主体としながらも、参加出来ない農業者に対しオンラインを活用したフォローが、今後の伝達手法に有効である

4 今後の課題

(1) 農業者に対するオンライン活用術の伝達

聞き手である農業者が、オンラインに対するハードルが下がるよう、理解の促進を図る。

(2) オンラインを活用するためのハードとソフトの充実

普及・農業者共にWifi等の環境の充実と活用する人自身のオンライン技術の向上を図る。